



火の柱

Friends of Jesus 2021.3

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②負しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を尊ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群です。(結成1921年10月5日)

特集 「イエスの友会百周年記念」 1p武藤富男編『百三人の賀川伝』鈴木武仁、 2pイエスの友会の思い出 鈴木諭香子、イエスの友会創立百周年に寄せて 中満恵、 3p 百周年記念夏期聖修会のお知らせ、4p百周年 記念大会に集まろう 長谷川勝義、会計報告 小野嶋正彰

武藤富男編『百三人の賀川伝』を読み解く

イエスの友会会長 鈴木武仁



一九五九(昭和三四)年初

春、賀川豊彦

先生は高松に

あつて療養中

の際、再起を

願つて百名近

くの方から寄稿してもらい武藤富男先生はそれを編集し上・下二巻にまとめキリスト新聞社から翌年の一九六〇年に発行されたことがあつた。その原稿整理をし、繰り返し読んでいくうちに、その紙背にある賀川先生の人格、信仰と愛を感じ取り、「まるで金鉱でも精錬するように丹念に整理訂正をして行くと、純金のような光が原稿の奥から射してくる」経験をしたそうです。「一人で書いた賀川伝もすばらしいが、百人が集まって書いた賀川豊彦はもつとすばらしい」と序文で書いています。イエスの友会創設百周年を迎えた今年、先輩たちの証言を少しでも紹介していきたい。

・河野進著 詩「財布」

騙され通しの賀川豊彦の底なしの財布
「みんな息子だからやたらいいさ、
「奉仕」病気だからってじっと寝ていないで、
喜んで働いてちやうだいよ、軽い人は鶏

を飼い 花を作り、もつと重い人はやさしい言葉をかけ、動けない人は祈つてあげる、誰でも病床の奉仕ができて、そうしたら必ず治る、五十余年の体験で訴える、賀川先生の顔はかがやいている」

・鈴木伝助著「賀川豊彦素描」

神戸神学校に入学した頃の賀川は孤独の人であつた。帰るべき家というものがなかつた。それに結核を病み、いつも蒼い顔をして咳をしていた。学生たちは病気が感染するので敬遠した。彼の孤独を慰めるものは、貧しい人々への奉仕と、彼らに對する愛慕とであつた。「天のお父さま、寒くなつて寝られませんかから蒲団を一枚やつて下さい」と言うような子どものようにありのままの祈りをされた。

・杉山健一郎著「賀川」とともに半世紀

賀川先生は人を使うことにかけては心得たもので、人前では決して叱らない。ほんとに叱る時は手紙をもつてする。「日本に帰つても君が事務の打合せのために顔を見せてくれないのがどうしたのだ。ここに君を待つこと数日、しびれを切らせて手紙を書く。伝道というものは戦争である。作戦と祈りなくして出来るものではない。旧式な、一人ぼっちののらくら伝道は私の堪えるところではない。顔を見せてくれ。君と熟議がしたい。十八日」

・熊谷政喜著「生きた体で言を語る」

先生は「僕は質屋をやっている」といった。「わたし」とこの質屋は、金目のものでなければ金を貸さないとはいわれない、鍋でも、洗面器でも、弁当ガラでも、何でも質草にとる。私の質屋は、貧乏人のために奉仕し、安心して働けるように助けているのです」賀川先生の五十年間は、人生

のあらゆる機会をとらえて神への客引きをした生涯であつた。

・牧野伸造著「セツルメント運動の先駆」

お母さんが赤ちゃんのむつをいとおず代えてあげるのを先生は「尻ぬぐい」という言葉で言い表し、また「下座奉仕」という言葉を好んで使いました。捨てられた者をも神の子として尊敬して引き上げるよう努力せよ、と言うのが先生の教えでした。昭和十八年鳥取の大震災が起るや、先生はリュックを負つて単身災害地に行き、八里の泥濘を踏んで訪問、救済事業の準備をしました。丹波の震災の時も、三陸地方の災害にあつても、先生は自分の親戚が罹災した如く、すぐさま救援に赴くのでした。

・中井正蔵著「賀川と三円八十銭」

大正八年のこと、「中井君、おはよう」と教会に來られたので、「三円八十銭のクリスマス祝会での献金を新川伝道のためにお使いください」と申し出ると、「なに、三円八十銭？」と首をかしげられた。「ありがとう、頂戴します」と言い、「君、実に不思議だね。今朝、例の呑み助がやつてきて、オイ、賀川、金をくれ、三円八十銭、入用なんだ、と言いますのでまあ待つてくれ夕方までは何とかするからと答えると、そんな悠長なことは言つておれない、今すぐ入用だと言つのです。それで近くのお宅へ頼みに行こうと思つて、ここまですて来て、立ち寄つたわけです。それが君の所で、しかも金額まで符合しているとは、祈りは聴かれるんだね。さっそくあの呑み助を喜ばせてあげよう」と言つて先生は帰つたのです。

イエスの友会の思い出

鈴木諭香子



「イエスの友会」には、思い出が一杯である。この会に入会したきっかけは、金子益雄先生だった。金子先生には、大変お世話になったのに何の御恩返しもしない内に召されてしまった。80歳の時は驚くほどお元気だったのに、ガンに罹られた故に83歳で帰天され、残念でならない。

特に印象に残っている夏期聖修会は兵庫三木市におけるものである。私も長年生協に加入してお世話になってきたのだが、そこは、賀川先生が始められた灘生協、今のコープ神戸の本拠地で、広大な敷地に種々の施設があり、賀川先生の記念館のような建物もあった。関西にはこういう場所があるんだと初めて知った。

浜名湖畔での夏期聖修会も、夫が唯一参加してくれた夏期聖修会として忘れ難い。

2002年の頃、「イエスの友会」のメンバー5人で、ブラジル旅行をさせて頂いたことも、忘れえぬ思い出である。鈴木武仁先生を団長として小川忠夫先生、二村兄、鈴木兄、私の5人である。英語があまり通じないブラジルにおいて、ポルトガル語に堪能な小川先生の存在はこの旅行は成立しなかつたらう。プロポリスの寺尾氏の農場に泊めて頂いたこと、下桑谷先生のアリアンサを訪問させて頂き、日系人方達との交わりも得難い思い出である。毎年2月に湯河原で持たれていた中央委員会、小川先生がいつも南米のゆ

ったりとした雰囲気のある笑顔で出迎えてくださった。私は、小川先生がガンにかかれて意外に早く召されてしまったので、悲しくて悲しくて仕方がなかった。「クリップのないコーヒーなんて」というコマールシヤルが昔あったが、「小川先生のおられないイエスの友会なんて」という思いだった。

昔、朝禱会のある禱友が、「水汲む僕は知れりよねえ、諭香子さん」と言っておられた。水汲む僕とは、カナの婚礼の時、(ヨハネ伝2章、大きなカメに水を一杯に汲んだ僕のことである。なぜと問うことなく、黙々とカメに水を汲んだ僕たちに、主は御業を現わされた。会の事務局の働きは、あまり表に出ることのない陰の働き、奉仕である。私も「信徒前進宣教会」という会の事務局を長年勤めてきた。小川先生も私も、共に「水汲む僕」であつたと思つている。長年「イエスの友会」の水汲む僕として、奉仕して下さつた小川忠夫先生に心からの敬意と感謝を献げる者である。

創立百周年によせて

東京中央ロータリークラブ 事務局

中満 恵



私は父親が公務員で転勤が多かつたため、子供の頃から日本各地転校ばかりしてきました。最も思い出深いのが最後に暮らした奈良で、私は既にクリスマスチャンで社会人になっていましたが、定年退官した父の第2の仕事が奈良にある女子大に与えられ、両親と私、そして母方の祖母の4人と愛猫を連れて移り住むことを決めたのでした。そこは手付かずの歴史遺跡がそのままだに、東京の十倍位ゆつくりと時が流れているような土地でした。2、3年おきに引越越していった私が、奈良には17年間住みました。いつしか大好きな故郷を知らない私にとつて離れ難い場所になり、永住したいと考えるようになりました。京都も大阪も神戸も、関西を沢山味わいました。永住が許されなかつたのは主のご計画が東京にあつたからだったと、今ではわかりません。でも、奈良を離れるのは辛く悲しく、心から感謝し主に従つていくまでに、私には長い年月がかかりましたし、これを言い尽くすことはできません。東京に来てからは過去を振り切るよう夢中で前を向いて生きてきました。あれから1度しか奈良を訪れていません。その時味わつた懐かしさが辛過ぎたためか、想い出は封印されたままずっと解かれることはありませんでした。

した。時間は、あつという間に過ぎていきやがて想い出に変わります。天地は過ぎ去つて行きますが、主のことばだけはとこしえに残るのです。

全てを覚えておられる主。私は、時空を超えて主イエスのことばに聞き従う覚悟と決断の扉が静かに開かれるのを感じました。

箱根での中央委員会の翌週、豊橋サマリヤ会で活動されている高島史弘兄弟を訪問しました。正月1日の豊橋滞在でしたが、路上で生活している方を支援し、暖かい住まいへと導いていく活動、これは主の召しがなければ到底できるご奉仕ではないと思ひ主を崇めました。質素なホームではあるものの、日々のみことばの力強い宣言と祈りがそこにはありました。庭の畑には、入居者が植えた葱などの野菜が育っていました。また時には魚を釣つてきてさばいて食べるなど自給を心掛けているそうです。年金だけで何とかやりくりし、公的な補助を受けずに生活する、その人に沿つた自律の道を模索する在り方に光が見えました。

帰京した所へ、この原稿のご依頼が届いていましたので、素直な気持ちで書かせて頂いた次第です。今私自身が新しくされていくのを感じています。どうか弱い私のためにお祈り下さい。終りに、最近与えられたとも恵まれたみことばをお分ちしたいと思ひます。祖母が使つていた文語訳聖書です。

すべての聖徒とともにキリストの愛の廣さ・長さ・高さ・深さの如何ばかりなるかを悟り、その測り知るべからざる愛を知ることを得しめ、すべて神に満てる者を汝らに満たしめ給はんことを。エペソ人への手紙3章18節19節「アーメン。主のご栄光が全地に満ち溢れますように。」

イエスの友会 創立百周年記念 第96回夏期聖修会のご案内

テーマ

綱領『イエスにありて敬虔なること』

聖書箇所: 使徒 10:2 彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りを捧げていた。

日時: 2021年7月26日(月)~28日(水)

場所: 1、2日目: ロングライフ医療福祉専門学校・ロングライフグループ研修センター
大阪市北区堂山町1-5 三共梅田ビル6階
アクセス: 梅田(大阪市営)[12(御堂筋線梅田駅)]から徒歩 8分

☆ 宿泊先は各自手配のこと

費用: 会費は1日あたり会員1000円(他1500円)
2日目昼食費1000円 3日目昼食費(菊水楼)5000円
全日参加費(昼食含む)会員9000円(非会員10500円)

※ ・1日だけの参加も可能。

・非会員の方はイエスの友会の会員登録費500円を支払いイエスの友会会員になると1000円お得になる。

参加申し込み 火の柱 次号6月発行の際の同封郵便振込用紙でお申し込みください。

日程

7月26日 第1日目

13:00 受付開始

14:00~17:00 イエスの友会100周年記念式典

7月27日 第2日目

9:00~9:50 イエスの友会 中央委員会

10:00~12:00 講演2 黒川知文 先生
『イエスの友会と賀川豊彦』

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00 講演2 浜田直也 先生
『イエスの友会は何故できたのか』

15:00~17:00 参加者交流会

7月28日 第3日目

10:00~11:00 奈良県 興福寺 五重塔前集合して祈祷と交流(有志)
アクセス: 近鉄奈良駅 2番口から徒歩 9分

11:30~13:30 菊水楼にて

閉会礼拝 ランチ 和食5000円

〒630-8301 奈良県奈良市高畑町 1130 菊水楼

アクセス: 近鉄奈良駅 2番口から徒歩約 9分

オプション: 閉会后

14:00頃~ 近くの駅または、公園にて、有志による路傍伝道

参考: 宿泊先候補

大阪

- ① ホテルユニゾ大阪梅田 (HOTEL UNIZO Osaka Umeda) TEL:06-6292-7686
大阪市北区芝田 1-10-3 アクセス 新大阪駅「東口」より徒歩 3分
- ② 名鉄イン 新大阪駅東口 TEL 06-6324-3434 大阪府大阪市東淀川区東中島一丁目 21番5号
アクセス 新大阪駅「東口」より徒歩 3分

奈良

- ① 天然温泉 吉野桜の湯 御宿 野乃 奈良
奈良市大宮町1丁目1-6 TEL 0742-20-5489
アクセス JR奈良駅より徒歩にて約1分、近鉄奈良駅より徒歩にて約10分
- ② スーパーホテル LohasJR奈良駅 天然温泉 飛鳥の湯
奈良県奈良市三条本町1番2号 TEL:0742-27-9000
アクセス JR奈良駅東口直結/近鉄奈良駅 4番出口から徒歩約15分

イエスの友会百周年記念 奈良・大阪に集まる

イエスの友会副会長 長谷川勝義



イエスの友会の発足について、山崎宗太郎氏は、『イエスの友会80周年史』の中で、次のように記している。

1921年(大正10年)10月5日、古都奈良の料亭菊水楼に集まった旧日基系の教職者14名は、福音伝道の熱い討議の末、一つの団体を作ることと一致した。そこで団体の名称を話し合ったが、吉田源次郎師の提案になる「イエスの友会」が採用された。この典拠は、ヨハネによる福音書15章14節であるとは、吉田師後年の述懐であった。

「わたしの命じることを行なうならば、あなたがたはわたしの友である」すなわちイエスの友である。

これは、日本における超教派伝道の先駆的活動であるといえるであろう。

ちなみにその時の参加者は、御大賀川豊彦をはじめ、村田四郎、吉田源次郎、日高善一、高崎熊樹、小野村林蔵、沖野岩三郎、山本岩吉、山口重太郎、諏訪修治、高尾益太郎、松尾造酒蔵、河村斎美、飯島誠太の14名であったが、とくに傍聴として、賀川ハル夫人が同席されていたという。

いつかの会場で賀川夫人より、その時の思い出を聞いたことがあるが、菊水楼の表看板に「日本基督教教役者大会」と大書きされていたので、「役者が来るそうなの」と、近所の娘たちが大勢のぞきに来たといひ、大笑いしたことがある。

菊水楼は、今も往年の大いらかを備え、猿沢池畔に健在である。

この時代というのは、まさに激動の時代であった。第一次世界大戦後、世界は大恐慌の時代に入っていく。労働運動も挫折し、共産党は、ロシアや中国で勢いを増した。国際連盟は作られたが、大恐慌が長引くにつれて、各国は再び、軍拡へと向かっていく。ドイツにナチス党ができ、中国共産党も結成された。

賀川豊彦は、アメリカ留学後、労働運動や農民運動、協同組合運動などの社会運動を精力的に行う。イエスの友会結成の前年、自伝的小説『死線を越えて』が国民的ベストセラーとなつて、彼は、一躍脚光をあびるようになった。こうした中、彼は、単なる社会運動ではなく、キリストの精神に基づいた精神運動を起さないと真の生活改善、社会の改善は不可能だと考えたのではなからうか。教会の枠を取り払って、イエスの名のもとに結集して新しい宗教運動を起したいと願つたに違いない。

それからすでに百年が経つた。この間、様々なことがあつた。関東大震災、第二次世界大戦、戦後の復興、東北大地震、新型コロナウィルスによるパンデミック。

百年前、賀川豊彦らが望んだキリストにある運動は実を結んだのであろうか。現状は少しも進展していないように見える。キリスト教会もイエスの友会も大発

展しているとはとても言えない。こうした中であつて、我々は、再び、奈良に集まると再スタートをしようとしている。我々の指針はすでに明らかである。これは変わることはない。イエスの友会五綱領は絶対の指針だ。

① イエスにありて敬虔なること。
② 貧しき者の友となりて労働を愛すること。

③ 世界平和のため努力すること。
④ 純潔なる生活を尊ぶこと。
⑤ 社会奉仕を旨とすること。

そして、「イエスの友」という志を同じくする同志は、七月には何かが起こることを信じて、奈良の菊水楼に集結しようではないか。

イエスの友会中央委員会の報告

日時 2021年2月22日23日
場所 とぎリゾートはこね別邸
夏期聖修会及び百周年記念事業について協議しました。



参加者 小野島正彰、小野島みき子、川健治、長谷川勝義、遠藤正一、金正模、満恵、鈴木武仁、東海林昭雄、鈴木諭香子、三浦清一、浅香いさく、陳エズラ、高島史弘、笠井賢哲

【2020年度会計報告】

二〇二〇年十二月以降二〇二一年二月迄の状況
◎維持会費(一万二千円)五名
(東海林昭雄、鈴木諭香子、高島史弘、長谷川勝義、亀島英城)

◎会費(三千円)九名(岩倉正美、浜田直也、小野島みき子、東海林昭雄、鈴木諭香子、高島史弘、長谷川勝義、亀山英城、中満恵)

◎クリスマス献金四名(網谷玲子、宮原亨、岩倉正美、稲城聡子)

◎感謝献金四名(坂田ミチ子、小野島みき子、中満恵)

◆会費納入と献金のお願ひ◆
尊い献金と会費等でイエスの友会の活動をお支下さり、イエス様にあつて感謝いたします。
▽たくさんの方から会費や献金をいただきました。感謝します。引き続き、各事業活動の費用のための会費や献金をお願いします。

また、イエスの友会百周年記念として出版物を計画していますので、併せて献金をお願いします。会費、献金、維持費、購読料等の振込先は、次のとおりです。

▼郵便振替口座 〇〇一七〇一七二四九五六
加入者名 イエスの友会本部
いつもご支援を心から感謝申し上げます
(会計担当 小野島正彰)

「火の柱」第726号
発行人 鈴木武仁

発行所 イエスの友会本部
発行日 2021年3月31日
本部事務局

44008603 愛知県豊橋市向山東町40014
トワメゾン向山3A

高島史弘(イエスの友会 事務局長)
携帯 090694615160

Maitakashima.m633@japan.email.ne.jp
郵便振替追加者名 イエスの友会本部

口座番号 00170740150009
火の柱編集 長谷川勝義

火の柱原稿メール先 bwpd5y8@j.commufta.jp
〒440-0026

愛知県豊橋市多米西町2-20-12